

土浦市

歴史と自然の息づくまち
～茨城県南の伝統文化都市～

土浦税務署 総務課長
長谷川　雅之

はじめに

土浦税務署は、明治29年11月に設置され、明治42年11月に谷田部税務署と合併し、現在に至っています。茨城県の南西部に位置しており、庁舎近くには、城下町・宿場町・港町として栄えた面影を感じることができます。

当署がある土浦市のほか、石岡市、つくば市、かすみがうら市及びつくばみらい市の5市を管轄し、管轄面積857.9km^2、人口約56万人、世帯数約26万世帯（令和8年1月現在）となっています。

管内には、「霞ヶ浦」や「筑波山」があり、自然に恵まれている反面、最先端の科学技術と産業が集まる筑波研究学園都市を有し、つくばエクスプレス（TX）沿線では人口増加や企業立地が進み、未だ成長し続けているなど、豊かな自然環境、歴史文化、先端技術が共存する魅力ある地域です。

ぶらり歴史めぐり

[土浦まちかど蔵]

江戸時代、土浦は水戸に次ぐ常陸国第二の都市として繁栄していました。旧水戸街道沿いには江戸時代から明治時代に造られた見世蔵、袖蔵、元蔵、向蔵の4棟を改修し、歴史的な建造物が集積しており、今でも城下町として栄えた面影を見ることができます。

[亀城（きじょう）公園]

土浦市の歴史のシンボルである土浦城址を整備した公園です。堀に囲まれた城の姿が水に浮かぶ亀に見えたことから、「亀城」の名で親しまれています。春には約50本の桜が咲き誇り、櫓や堀との美しい景観を楽しめる市内有数の花見スポットとして、多くの人々に親しまれています。



土浦まちかど蔵「大徳」（写真提供：土浦市観光協会）



亀城公園（写真提供：土浦市観光協会）

自然の恵みを満喫

[霞ヶ浦]

茨城県南部に広がる、琵琶湖に次ぐ日本第二の湖です。雄大な湖面と豊かな自然環境に恵まれ、ワカサギ、シラウオやエビなどの水産資源を育むとともに、人々の暮らしや産業を支える貴重な水辺です。湖畔では四季折々の美しい風景を楽しむことができ、サイクリングやクルージングなどのレジャーのほか、日本有

数のブラックバスの釣り場としても人気があります。

明治から昭和40年代にかけて「帆引船（ほひきぶね）」が活躍し、大きな帆で風を受けて船を進め、網を曳いてワカサギ漁などを行っていました。現在は観光帆曳船として運航され、白い大帆が湖上に映える霞ヶ浦の代表的な風物詩となっています。



観光帆曳船（写真提供：土浦市観光協会）

[筑波山]

東西に並んだほぼ同じ高さの2つの峰（女体山877m、男体山871m）からなる双耳峰で関東平野の中央にそびえ、どの方面からも仰ぐことができ、昔から「西の富士、東の筑波」と称され、朝夕に山肌の色を変えることから、別名「紫峰（しほう）」とも呼ばれる茨城県を代表する名峰です。

四季折々の自然や山頂からの眺望が魅力で、多くの登山客や観光客が訪れます。



筑波山（写真提供：つくば市）

[つくば霞ヶ浦りんりんロード]

昭和62年に廃線となった旧筑波鉄道の廃線敷と霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180kmのサイクリングコースです。

土浦地区では、春は桜・あんず、夏はハス、秋はソバの花が咲き、利用者の目を楽しませてくれます。



つくば霞ヶ浦りんりんロード（写真提供：土浦市観光協会）

秋の夜空を彩る光の競演

土浦全国花火競技大会は、毎年11月第一土曜日に土浦市街地を流れる桜川の川岸で開催され、大正14年から続く日本三大花火大会の一つです。

全国の花火師が技術を競い合う競技大会として知られ、色鮮やかなスターマインや創造性あふれる花火が夜空を彩ります。多くの観覧者が訪れる、土浦市を象徴する一大イベントです。



土浦全国花火競技大会（写真提供：土浦市）

レンコンの産地

土浦市は、霞ヶ浦周辺の豊かな水環境と肥沃な土壌を生かしたレンコン栽培が盛んな地域です。レンコンは市を代表する特産品であり、シャキシャキとした食感と品質の高さが評価されています。広大なレンコン田が広がる風景は地域の特色の一つとなっており、全

国へ出荷される茨城県産レンコンの主産地として地域農業を支えています。レンコンの消費拡大に向け、11月17日を「土浦市れんこんの日」とすることも話題となっています。



土浦市の特産品「レンコン」（写真提供：土浦市観光協会）

人気アニメの聖地

人気アニメ・漫画『機動警察パトレイバー』の作中設定で、ライバル機「グリフォン」を開発した『シャフト・エンタープライズ・ジャパン土浦研究所』が土浦市に置かれているため、土浦市ではこの縁を生かした展示やデザインマンホールの設置などにより、ファンが訪れる“聖地”として注目を集めています。



デザインマンホール（土浦市×機動警察パトレイバー）
（写真提供：土浦市）

その他管内の見どころ

［常陸國總社宮例大祭（石岡のおまつり）］（石岡市）

300年以上の歴史を誇り、豪華絢爛な山車や勇壮な幌獅子（ほろじし）が、軽快な石岡囃子の音色とともに市街地を練り歩きます。毎年9月に開催し、県内外から多くの見物客が訪れ、秋の石岡を熱気で包みます。



石岡のおまつり（写真提供：石岡市観光協会）

［宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センター］（つくば市）

昭和47年に設立されて以来、宇宙開発の最先端分野の研究・開発・試験が行われており、日本で最大規模の宇宙開発の拠点として、多彩な活動を行っています。展示館では実物大の人工衛星やロケット関連展示を見学でき、本物の宇宙開発を身近に触れることができる注目の施設です。



宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センター
（写真提供：つくば市）

おわりに

土浦署管内は、豊かな自然にも恵まれ、水運の要衝として古くから発展してきた歴史ある地域です。

これからの行楽シーズンに向けて、自然に触れながらリフレッシュしてみてはいかがでしょうか？是非一度、当署管内の魅力ある地にお立ち寄りください。



栃木市

歴史が芽吹く蔵の街とちぎ

栃木税務署 総務課長
相良　敏雄

はじめに

栃木税務署は明治29年11月に設置され、その後明治33年に栃木市本町に移転し、令和2年6月に栃木市河合町に栃木地方合同庁舎が竣工され移転し現在に至っています。管轄区域は、栃木市、小山市、下野市、下都賀郡（壬生町、野木町）の3市2町で、管内面積は約669km^2、管内人口は約44万人となっています。

税務署が所在する栃木市は栃木県の南部に位置し、江戸時代には市内を流れる巴波川（うずまがわ）を利用した江戸との舟運と、朝廷から日光東照宮に派遣された使者が通行した例幣使街道の宿場町として栄えた商都で「蔵の街」の別名を持っています。また、栃木市の由来は栃木市中心部にある神明宮の社殿に「千木(ちぎ)」と「鰹木（かつおぎ)」があり、遠くから見ると合わせて10本に見えたため、「十千木（とおちぎ)」と呼ばれ、それが「とちぎ」になったと言われています。



神明宮

蔵の街とちぎ

江戸時代から明治時代にかけて商人たちが商品や財産を守るために、巴波川の両岸に白壁を建てていきました。

現在も巴波川の岸辺には、黒塗りの見世蔵や板塀、白壁の土蔵が残っており、黒漆喰や白漆喰で仕上げられた重厚な蔵は当時の繁栄を物語っており、歴史的な町並みは「都市景観100選」に選ばれ一部地域は重要伝統的建造物群保存地区にも指定されています。また、3月から5月にかけて巴波川に、約1,151（いいこい）匹もの鯉のぼりが掲げられ、蔵の街並みを悠々と泳ぐ姿が楽しめます。

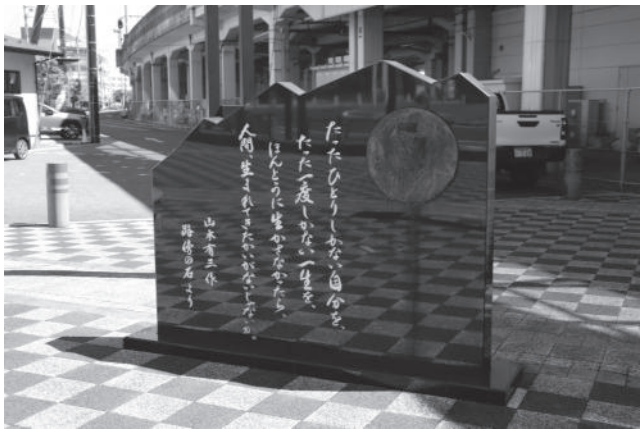


うずまの鯉のぼり

山本有三

「路傍の石」などで知られる、文豪山本有三（1887年～1974年）は栃木市の出身です。路傍の石には、当時の栃木の風景や人々の暮らしが色濃く反映されていると言われています。また、栃木駅北口広場にある「路傍の石」の文学碑には「たった一度」の一節『たった一人しかない自分を　たった一度しかない一生を

本当に生かさなかったら　人間生まれてきたかいがないじゃないか』が刻まれており、栃木署の職員はこの一節を胸に刻み出勤しています。



路傍の石　文学碑

とちぎ秋まつり

2年に1度11月に開催される「とちぎ秋まつり」は、期間中延べ20万人以上の人出で賑わう栃木市最大のお祭りです。その始まりは明治7年に当時栃木町（現在の栃木市）にあった県庁構内で行われた神武祭典のときに、静御前の山車が参加したのが始まりです。その後町内会ごとに大工や人形師によって制作された人形山車は、神武天皇や桃太郎、劉備玄徳などの三国志の英雄が見事な彫刻と金糸、銀糸の刺繍で豪華に飾られ、蔵の街を練り歩きます。

祭りの一番の見どころは「ぶっつけ」といい、複数の山車が向かい合って、お囃子を競い合う場面で、提灯を振りかざし、掛け声をかけながら、太鼓や笛、鉦（かね）の音が街中に響き渡り、祭りの熱気は最高潮に達します。

太平山

栃木市の南西部に位置する県立自然公園の太平山は、標高343mの小高い山で、緑豊かな松と杉の大木に囲まれており、春には桜やつつじ、夏に紫陽花、秋には萩と四季を通じて花を楽しむことができます。山頂近くの謙信平は、兵馬の訓練で太平山に登った上杉謙信が、関東平野を見渡し、あまりの広さに目を見張ったという故事から名付けられています。謙信平からの眺めは、はるか南方の秩父連山をはじめ、渡良瀬川との間に点在する丘や林などが海に浮かぶ小島のように映ることから「陸の松島」とも言われています。

古くより太平山の頂上から栃木市を見守っているのが太平山神社です。天長4年（827年）、慈覚大師により創建されたといわれ、武門をはじめ多くの人から信仰を集めています。神社拝殿の境内社には、安産、豊作などたくさんの神様が祀られています。中でも「交通安全神社」は、他の神社にはほとんどないため全国から交通安全祈願の申し込みがあります。

また、太平山神社の表参道にある「あじさい坂」は栃木市を代表する花の名所で、約1,000段の石段が続き、その両側には西洋あじさいや額あじさい、山あじさいなど約2,500株が植えられています。

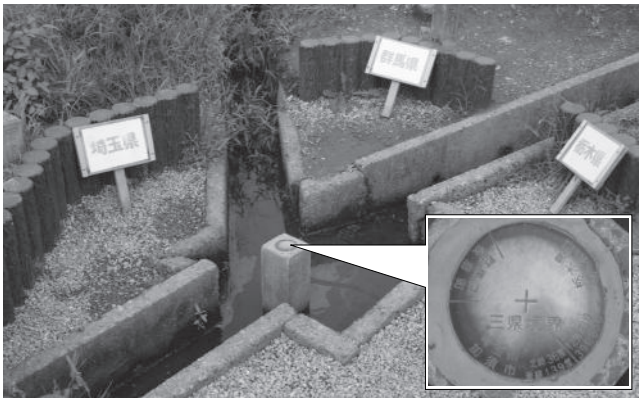


あじさい坂（写真提供：栃木市観光協会）

渡良瀬遊水地

渡良瀬遊水地は、栃木、群馬、茨城、埼玉の4県にまたがる面積33km^{2}の大遊水地で、平成24年7月には国際的に重要な湿地の基準に該当したとしてラムサール条約湿地に登録されました。毎年3月には、害虫駆除や植物の成長の促進、樹林化の防止などを目的としてヨシ焼きが行われます。ヨシ原の各所に一斉に火が放たれると、1,500haの原野が真っ赤な炎に包まれます。周囲の堤防には、多くの見物人とカメラマンが訪れ、春の風物詩として楽しまれています。

また、渡良瀬遊水地付近には、三県境があり、栃木県、群馬県、埼玉県の3県が一点で接する場所で、全国に40か所以上ある中で、唯一歩いて3歩で回れる三県境があります。



三県境

おわりに

栃木市は、「歴史」「文化」「自然」「グルメ」がそろっており、訪れるたびに新しい発見に出会える街です。観光でお越しの際には散策しながら、季節ごとの魅力をお楽しみください。



佐渡市

世界遺産の輝きとトキの舞う島　佐渡

佐渡税務署 総務課長
小出　勇一

はじめに

佐渡税務署は、新潟県佐渡市に所在し、佐渡島全域を管轄する税務署です。現在の庁舎は、平成7年6月に新設された海岸線から約100メートルに位置する合同庁舎であり、現在15名の職員が海風を感じながら従事しています。

日本海に浮かぶ佐渡島は、新潟県の西方約45キロメートルに位置する日本最大の離島です。面積は約855平方キロメートルあり、豊かな自然、長い歴史、独自の文化が調和した魅力あふれる島として知られています。


佐渡相川合同庁舎

佐渡の歴史

[佐渡の成り立ち]

現在の佐渡島は一つの島に見えますが、もともとは北側の「大佐渡」と南側の「小佐渡」という二つの島でした。長い年月をかけて両島の間に土砂が堆積し、現在の国中平野が形成されたことで一つにつながったといわれています。

島の中央に広い平野があり、その両側を山地が囲む特徴的な地形は、豊かな自然と農業を育んできました。また、日本海航路の要衝として古くから本州との交流が盛んで、人や物、文化が行き交う場所でもありました。

[流刑の地としての歴史]

佐渡島は都から遠く、日本海に隔てられた地理的条件から、政治的な理由などで多くの人々が配流されました。

代表的な人物として、承久の乱後に流された「順徳上皇」、鎌倉時代の「日蓮聖人」、そして室町時代に能を大成した「世阿弥」が挙げられます。こうした人々は、和歌や思想、芸能など当時の高度な文化を島にもたらしました。流刑は厳しい処分でしたが、その一方で都の文化が佐渡へ伝わる契機にもなり、流人たちが残した文化は島民によって受け継がれ、後の能や民俗芸能の発展につながっていきました。

[伝統芸能の宝庫]

佐渡が「伝統芸能の宝庫」と呼ばれる背景には、流刑の地として培われた歴史があります。世阿弥ゆかりの能は、江戸時代に佐渡奉行や金山関係者の保護を受けて広く普及し、現在も島内には30を超える能舞台が残されています。

地域住民によって能が受け継がれている地域は全国的にも珍しく、佐渡は「能の島」とも呼ばれています。


薪能

また、鬼太鼓（おんでこ）は佐渡を代表する郷土芸能で、鬼の面を付けた舞手が太鼓に合わせて勇壮に舞

い、五穀豊穣や無病息災を祈ります。地域ごとに舞い方や囃子が異なるのも特徴です。

さらに、佐渡を代表する民謡「佐渡おけさ」も広く知られています。その起源は熊本県の「ハイヤ節」が日本海航路を通じて伝わり、佐渡で独自に発展したものとされています。今では全国的に親しまれる民謡となっており、優雅な踊りとともに佐渡の文化を象徴する存在となっています。



鬼太鼓（おんでこ）

［宿根木の町並み］

小木地区にある宿根木は、江戸時代から明治時代にかけて北前船の寄港地として栄えた歴史的集落です。佐渡金山の繁栄に伴い海上交通が発達すると、宿根木には船主や船乗り、船大工たちが集まり、海運の拠点として大きな発展を遂げました。最盛期には百隻を超える北前船を保有したともいわれています。

宿根木は、山と海に挟まれた限られた土地に広がる独特の町並みが特徴で、船大工の技術を生かした家々が立ち並び、現在は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。


宿根木の三角家

［佐渡島の金山］

佐渡の歴史を語る上で欠かせないのが佐渡金山です。1601年に大規模な金鉱脈が発見されると、徳川幕府の直轄地となり、日本最大級の金銀山として発展しました。

江戸時代を通じて幕府財政を支えただけでなく、日本の鉱山技術の発展にも大きく貢献しました。そして令和6年7月、「佐渡島の金山」はユネスコ世界文化遺産に登録されました。世界的にも価値の高い鉱山遺産として認められたことで、佐渡への注目はさらに高まっています。


佐渡金山　道遊の割戸

そして、相川地区にある北沢浮遊選鉱場跡は、山中に巨大なコンクリート遺構が残されており、その姿がまるで映画『天空の城ラピュタ』の世界のようだと話題になっています。夜間ライトアップも行われ、幻想的な景観を楽しむことができます。


北沢浮遊選鉱場跡

トキと暮らす郷

［トキの保護繁殖活動］

かつて日本の空を広く飛び回っていたトキは、乱獲や生息環境の悪化により野生絶滅しました。

しかし、佐渡では官民一体となった保護活動が続けられ、中国から提供されたトキの人工繁殖に成功しました。現在では野生復帰も進み、田園地帯の上空を優雅に飛ぶトキの姿を見ることができます。佐渡はまさに「トキと暮らす郷」となっています。



［米どころ佐渡、生きものを育む農法］

トキを育む豊かな自然環境は、おいしいお米の生産にも生かされています。佐渡では、豊富な水資源と肥沃な土壌、昼夜の寒暖差に恵まれた環境のもと、高品質なコシヒカリが栽培されており、全国的にも高い評価を受けています。

また、トキが安心して暮らせる環境づくりのため、「生きものを育む農法」を推進し、農薬や化学肥料の使用を抑えた農業に取り組んでいます。その結果、水田にはドジョウやカエル、昆虫などの生きものが増え、生態系の保全にもつながっており、こうした農業と自然環境の保全を両立する取組は、佐渡の大きな特色となっています。

観光スポットとイベント

［大野亀のカンゾウ］

佐渡島北部にある大野亀は、高さ約167メートルの巨大な一枚岩です。

毎年5月下旬から6月上旬にかけて、斜面には約50万株ともいわれるトビシマカンゾウが咲き誇ります。青い日本海と黄色い花々のコントラストは圧巻です。



大野亀のトビシマカンゾウ群生

［佐渡国際トライアスロン大会］

毎年9月に開催される佐渡国際トライアスロン大会は、日本を代表するロングディスタンスの大会です。最長のAタイプは、スイム4km、バイク190km、ラン42.2kmで構成され、バイクコースは佐渡島をほぼ一周する設定となっており、選手たちは雄大な海岸線や山岳地帯を駆け抜けます。

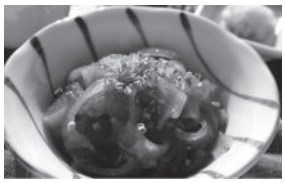
全国から多くのアスリートが参加し、島民による温かい声援を受けながらゴールを目指します。スポーツイベントであると同時に、島全体が一体となる地域最大級の行事です。



グルメ

佐渡は豊かな自然に育まれた食材の宝庫です。日本海で獲れるブリ、マグロ、イカ、甘エビ、カニ、アジなどの新鮮な海産物を使った寿司や海鮮丼などが親しまれています。

郷土料理では、海藻のいご草から作る「いごねり」、ご当地グルメとしては、「ブリカツ丼」が大変人気です。





いごねり、ブリカツ丼

おわりに

佐渡島には、まだまだ紹介しきれない人気スポットやグルメが盛りだくさんあります。また、良質な米と水を使った個性豊かな銘酒を堪能できる大変魅力的な地域ですので、是非、佐渡へ来いっちゃ！（来てください！）

※写真の提供：佐渡市役所観光文化スポーツ部観光振興課